

## 昭和興産

昭和興産は中期経営計画「SK2020」で新規商材の育成と海外展開の強化を進める。工場向け簡易設備監視システムのタイでの販売開始やインドネシアでのハーブプロジェクトの始めに取り組み、2020年1月にベトナムで駐在員事務所の開設を決定した。

同社は中計で最終年度の20

年度(12月期)に売上高1000億円(国内単純計算)の達成を目標とする。19年度上半期の業績は情報電材、

化学品が減少したが、合成樹脂は前期並みを維持、産業資材は、土木関連資材などの好調で増加しトータルで減収増益となった。通期でもナフサやアルミなどの市況が低位で推移、売上高は減収を見込むが、高付加価値商品の扱い増加により経常利益は増益となる見通し。

新規商材育成では保全作業を大幅に簡略化する工場向け簡易設備監視システムをタイで発売したほか、インドネシアでの展開を見込むハーブビジネスが現地企業との連携に向け最終判断を行う時期となり、早ければ年内

に結論を出す。セルロースナノファイバーは取り組みを継続し、将来の事業柱として育成を目指す。

海外展開ではベトナム・ホーチミン市に駐在員事務所を開設する。タイ現地法人の昭和興産タイランドの駐在員事務所、東南アジアでタイ、インドネシアに次ぐ拠点となる。

国内では60周年を迎えた北海道営業所での活動を活発化する。同所は土木資材や製紙関連部材を中心に扱っているが、主力の止水剤な

ど土木関連資材が好調で売上高、利益とも伸長。道路の光る防護柵として敷設することで吹雪中や夜間でもドライバーの視線を誘導できる「ガードケーブル・ワイヤーロープ用視線誘導灯」の提案を促進する。

社内では働き方改革を具現化する活動として女性活躍推進プロジェクトの活性化や副業の容認、テレワークの実現へ向けた検討なども進め社員の能力アップを支援する。

## 新商材育成、海外を強化